

# なぜパウロはテントメイキングをしたのか？

ルース・E・シエメンズ

翻訳:ゴスペルハウス翻訳部

## 新しいこと

教会は、世界宣教達成のために何干というクリスチャンプロフェッショナル;テントメーカーを必要としています。エンジニア、科学者、ビジネスマン、保健従事者、スポーツマン、農業家、コンピュータ技術者、マスコミ関係者、教育者など、すべての部門において、21世紀において証しと仕事を融合させるテントメーカーが必要とされています。1世紀においてパウロがそうしたように。

しかし実際のところ、使徒パウロはどれぐらいテントメイキングをしながら働いたのでしょうか。そしてどれぐらいの献金を受け取っていたのでしょうか。いったい彼はどのようにその手で仕事をしたのでしょうか。彼の戦略は私たちの住む近代世界にも適応できるものなのでしょうか。これらの質問を調べる前に、私たちは現代のテントメーカーたちが何をしているのか、そしてどうしてそんなにもテントメーカーが必要とされているのかを考えましょう。私たちは、まず現代のテントメイキングの実際的な合理性を考えた後に、パウロの原則を学びましょう。

## テントメーカーとは誰か？

テントメーカーとは、非宗教的な場所で働きながら自分自身をサポートし、その仕事において、また仕事外の時間に海外での宣教をする宣教を動機としたクリスチャンのことです。彼らの職業はさまざま、企業家、専門を持ったサラリーマン、従業員、有給のボランティアワーカー、またクリスチャンの専門の留学生、調査員、インターン、留学生などです。彼らは少しの給料または無償で教会で奉仕を願い出ることができます。他方で、普通の宣教師は、送り手から宣教団体や教会を通して献金を受け取っています。彼らは、たとえ彼らが看護や教育など、技術を用いて仕事をして、宗教人だとおもわれま。なぜなら彼らがクリスチャンの組織から援助を受けているからです。これらの双方のそれぞれすばらしい働きモデルはもし彼らが互いにオープンで誠実でありさえすれば融合し、調和するものです。いくらかの送り手の献金を受けて低い給料で働いているテントメーカーもいますし、サポートと未信者との交流のために学校や大学といった非宗教的な場所でパートタイムで働いている宣教師もいます。宣教団体がその職員に組織的な信頼性を加えるための援助をするときもあります。神はクリスチャンを献金によって生活するかテントメイキングをするか状況によって変えるように召される場合もあります。

不幸なことに、海外で仕事をしているほとんどのクリスチャンはテントメーカーではありません。彼らはその家庭においてほとんどもしくはまったくミニストリーを持たない人た

ちで、海外に行ってもそれは変わりません。彼らは同国人のいるインターナショナル教会に行くだけです。アメリカ人なら英語を話す会衆に加わるために。しかし少数の国外のクリスチャンは現地の市民そして受け入れ国での彼らの職場にいる外国人に伝道をしようと願っています。たぶん1パーセント以下の人がテントメーカーでしょう。

働きの仲間での間での主要な誤解の一つはテントメーカーの仕事をしていたら、ミニストリーをする時間もエネルギーもほとんど残っていないのでは、というものです。クリスチャンの働き人はよく私に聞きます。「あなたはそんなに多くの時間を非宗教的な場所に使って、神のためにはほとんど時間が残っていないということで葛藤したことはないのですか?」しかし私は私のすべての時間は神に属していると信じて来ました!神は私をペルーのリマにある非宗教的なバイリンガルスクールに導いてくださり、そして次にブラジルのサオ・パウロにある学校へと導いてくださいました。主はそこで私にペルー人やブラジル人の先生、小学校の生徒や、彼らの上級生や家族とわくわくするようなミニストリーを与えてくださいました。それに加えて、そこには学校の看護婦も、管理人も、バスの運転手さんも、調理人もいました。このミニストリーの中心は私の職業でしたが、それらは私の私生活、つまり家に人を招いたり、家庭で聖書研究会を開くことにも広がりを見せました。

私は自由な時間には地域の教会で教えたり、訓練を導いたり、大学生会を始めました。大学での働きは30年の間私の主な働きで、NCF-IFES学生運動をペルーとブラジルで、後にはポルトガルとスペインで開拓をしました。そして多くの外国の国々で学生やスタッフの訓練をしました。後半の時期は私はフルタイムスタッフとして働き、送り手の献金を受けていました。なぜなら私は仕事と証しを融合させていたからです。

## どんな働きがなされたのか?

ダンはアラブの大学で言語学を教えながらまだ聖書をまったく読んだことの無い500万人のイスラム教徒が使う言語に新約聖書を翻訳していました。彼は自国で住む事が出来なかったので、何干という外国からの人々が働く国に就職することを決めたのです。

エンジニアであるジムは、クリスチャンが公に集まることを制限されたアラブの国で、10の家々で牧会する平信徒の牧会者を導いていました。彼は彼らがその週の説教を準備するのを導き、いっしょに祈っていたのです。

高校の科学の先生であるケンは、アフリカのある村の教会に毎月第3日曜日に招かれて説教をしていました。インドのヒンズー教の文化と宗教の学校を卒業したドンは、地域教会で働き、近くの神学校で教鞭をとっていました。大学の英語講師のグレッグは、中東でクリスチャンの出版会社を設立する手伝いをしました。メアリーは文章を教えながら地域のクリスチャンが東アジアで小説を書く手助けをしました。高校教師のノラは、アフリカのクリスチャンラジオ局で、台本の執筆と番組制作をしました。南部ヨーロッパの交響楽団でプロのバイオリニストをしていたナンは、地域教会の音楽の発展に貢献しまし

た。中国の英語教師達は近くの孤児院で時間を割き世話をしました。多くの教育者は彼らの働く大学や学校でキャンパス・ミニストリーを導いています。何人かのテントメーカー達はビジネスマンに、また女性達に、子供に、スラムの人々に、また囚人に対する働きをしています。健康診断や家庭問題を扱っている人も多くいます。テントメーカーは、多くの働きの中に専門知識生かすことが出来るのです。新しい働きを始め、あなたがそこを去らなければならないときにはその地域の人々が続けられる様に訓練をする、というのが理想です。

テントメーカーの第1の働きは職場での伝道です。彼らの非宗教的な立場(または勉学のプログラム)は彼らの第1の目標である伝道から時間を奪うようなものではありません。これらのものは神が与えた伝道のための必要な舞台なのです。何も無い場所での伝道が多くを生み出すことはめったにありません。

ゆっくりした漁師伝道は靈的に反抗的な国において最も適切です。クリスチャンは彼らの周りにいる無関心な人々、反抗的態度を持つ人の中から求道者を釣るためにえさを使います。彼らは魅力的で、信仰的で、さばかない態度を持って福音を生きるのです。彼らは苦しみの中にあるときにも神を知る喜びと希望を生活の中に実行するのです。彼らは綿密な調査の元で個人的な誠実さ、質の高い仕事を実行し、愛のある関係を広げていくのです。彼らは完璧ではないので、すぐに謝り、彼らもまだ神を喜ばせることにおいて勉強中であることを認めるのです。

彼らのライフスタイルはえさの一部です。しかし言葉なしの模範的な生活は人々を混乱させます。彼らの口から証しをしなければなりません。友達関係、愛のある人間関係を作ったあとで、テントメーカーは非宗教的な会話の中に機転を効かせて適切な神に関する言葉を織り込みます。彼らはみんなが同意するような気軽な、自然なやり方で会話の中に小さな靈的爆弾を落とすことを覚えていきます。彼らの生活と言葉は靈的に渴いた人の食いつきを引き起こします。求道者は質問をしてくるのです。

漁師伝道は構成され、マニュアル化されたような活動ではありません。人々と自然な形で関わりを持つことです。私達は質問をしてくる人に向かって福音を説明することに喜びを見出します。求道者のプライバシーに侵入しているわけでも、不便な時間に彼らを煩わしているのでもないことを知っているのですから。最初に会話を始める質問をして会話をリードするのは求道者のほうなのです。私達はしばしばあまりにも早く、あまりにも多くのことを言いすぎてしまいます。彼らの質問が彼らに言うべきことを私達に教えてくれます。それらの質問は彼らの内側の必要、心の傷、離婚、信仰に対する葛藤や、どの真理が彼らにかけているか、誤解しているのかなどを教えてくれるのです。

パウロもペテロも、求道者から正しい質問を引き起こし、それに答える準備をしておくというタイプの伝道について説明しています。この使徒たちは2人とも職場ということを考えの中にいれていました。(コロサイ4.5.6、ペテロ3: 14-16)もし誰も質問しないとすれば、それはそのクリスチャンの話すことや振る舞いが、神を知る価値はないと周りの人に感じさせたことを意味します。えさが無いのです。しかしすべての魚には適切な種類のえさがあって、それらのえさは求道者の最も深い願い事に届くのです。

クリスチャンは決して質問を恐れる必要はありません。難しい質問でもです。私達は学ぶ人として伝道すべきなのです。権威者としてではなく。私達はこう言うことが出来ます。「明日までにそれを考えさせてください。はっきり答えることが出来るように。」求道者の質問はまた、御言葉を開く機会を与えてくれます。テントメーカーはこう言うことが出来ます。「私は信仰についてまだ勉強中です。でもこのことに関してイエス様ご自身がどのように言っておられるか見て見ませんか。」そして小さな新約聖書を出して適切な箇所から5分間の聖書研究をします。

このアプローチは職場やキャンパスにおいて理想的です。同じ人々と毎日会うときは、神についての最初の会話によって、それに続く会話のドアが閉じてしまはいけません。ゴールは、人々が準備が出来たときに、もっと多くを知るために質問を続けることなのです。

このアプローチは霊的に反抗的な国々において理想的です。テントメーカーは、他の人の反感を引き起こすことなく求道者を釣ることが出来ます。個人的な会話は仕事外の時間にもすることができるようになります。これらの会話は伝道的な聖書研究会に発展し、そして弟子訓練聖書研究会へ、そして家庭集会になっていくでしょう。これらは教会開拓の理想的な形です。

テントメーカーはチームをなして働きます。テントメーカーは決して1人だけで働くべきではなく、交わりと同じ働きをするグループの中で働くべきです。彼らは家で祈ることによって友達や教会と協力します。彼らが行く新しい宣教地では、テントメーカーのチームや、国際教会と、協力したり、テントメーカーを送り出す団体のメンバーとして、あるいは通常の宣教団体のメンバーとして働きます。もし言語や文化の問題で現地の人を悩ますような教会でなければ、外国人教会もいいでしょう。

## どうしてテントメイキングが必要なのか。

下に上げる9つの理由は、私達がイエスキリストの教会がすべての民族に立てあげられるのを見たいという願いを持つときに、どうしてテントメイキングが重要なのかということを示しています。

- 1) テントメイキングによって、反キリスト教国への入国が可能になります。世界の人口の80%の人々が、ほとんどのまだ福音を聞いたことの無い人々を含めて、宣教師としてクリスチャンを入国させない国々に住んでいます。
- 2) キリスト教の活動が制限された国、または開かれた国において、自然で、継続的な未者ととの交流が与えられます。これは彼らをキリストに勝ち取るために不可欠なことです。テントメーカーは外国において、彼らと専門分野を同じくする人々と容易に関係を造ることが出来ます。

- 3) 世界的に物価が上昇し、ドルの価値が安定しないこの時代にあつて、全面的なサポートを必要とするような宣教師の宣教活動を少しの献金によってまかなうことが出来ます。
- 4) 福音従事者の数が増えます。テントメイキングは最適な宣教の原動力としての私達の最善の希望です。十分に給料をもらっている福音従事者はいないことでしょう。しかし専門を持った職場における平信徒の証し人は世界宣教に偉大な貢献をします。もとはといえば世界宣教というのは平信徒の活動として始まったのです。
- 5) それはクリスチャンのラジオ放送を聞くことの出きる何百万という人に対して、その福音を生きるということによって補足することが出来ます。福音は聞くことと同時に、見られるものでなければなりません。テントメーカーはラジオのリスナーを釣り、弟子化し、交わりを構築していくのです。
- 6) 第1の期間を終えない宣教師の数、また次の宣教地を探すために帰ってくる宣教師の数を減らすことが出来ます。(30%の割合で宣教師が減っています。)言葉や文化を学ぶ間はセルフサポートをし、その後で通常の宣教師としての献金を受ける奉仕に適應する人々も今までにいました。彼らは、彼らもどってくるべき生活を知っているのです、長続きしやすいのです。
- 7) テントメイキングは、開かれた国の政府において宣教団体が合法化されやすくし、反キリスト教的な国に対してもその存在を正当化しなければならないようにします。宣教団体は、もしそのメンバーの技術が非宗教的な機関において国を建てあげるようなものであれば、その国からの好意を受けることが出来ます。
- 8) テントメイキングは新しく宣教師を送っている第三世界の国々において宣教団体が現れてくるのに理想的な形です。これらの国々は西側の国々の献金に支えられる宣教スタイルについていくことが出来ないのです。なぜなら彼らには送るお金が無かったり、外国に献金を送ることが合法的でなかったりするからです。
- 9) テントメイキングは、こんにちの世界的な雇用マーケットを有効利用する事になります。これは世界宣教達成のために神が私達に備えてくださった状況です。私達は、この何百何千という世界規模の整った雇用状況を見無視していられるでしょうか。偽の宗教やカルトがその異教の教えを広めるためのこの状況を利用しているのに、です。

しかし、1世紀の偉大な教会開拓者であるパウロは21世紀に生きる私達に向かってテントメイキングをするもっと大きな理由を与えてくれます。彼の不滅の理由は歴史の終わりに近づいている私達にとってはもっと重要な意味を持つようになってきます。それを見る前に、私達は経済的な選択権について考える必要があると思います。パウロが、どれくらい働いたのか、またどれくらいの献金を受け取っていたのか、そしていっただいなぜ彼は働いたのかということについてです。

## パウロは経済的必要性を満たすどんな選択権を持っていたのでしょうか？

彼は3つをあげています。1)多くの巡回哲学者達がしていた様に、彼は聴衆や改宗者たちからお金をいただくことができました。彼はこの選択を完全に拒否しました。2)彼は友達やすでにある教会から献金をいただくことが出来ました。3)彼は自分の稼ぎでセルフサポートすることが出来ました。

コリント9章に、クリスチャンの働き人に対する送り手の献金の贈り物に関して強い議論を述べています。彼はペテロとその妻が長年にわたって教会のサポートを受けてきたことに関して賛成しています。

もっと昔に、イエス様はペテロに、その漁師の仕事を永遠に止めて、ただ彼の民を通して必要を満たしてくださる神に信頼を置く様にお召しになりました。(ルカ5:1-11)イエス様が復活されて後、ペテロは彼の船に帰りました。イエス様は岸辺で彼とお会いになり、彼が人間だけを釣る漁師となる献身を新たにしてくれる様にお願ひされました。彼は3度も約束しなければなりませんでした。(ヨハネ21)何年も過ぎて後も彼はその献身に忠実に従っていました。彼は神の民から経済的サポートをまだ受けていました。

コロサイ9章において、パウロは形成された教会や、彼の開拓した新しい教会からサポートを受ける使徒職としての権利について述べています。しかし同じ章で彼は三度も(12.15.18節)彼が1度もこの権利を用いたことが無いと述べているのです!三度もです!この手紙は彼の第三伝道旅行の最後に近いエペソから書かれた物ですから、彼の三度の伝道旅行のすべて、そしてそれより以前の働きも含まれていると考えられます。

どうして彼は受け取ることが出来たのに教会からのサポートを拒否したのでしょうか。彼はそれを良いと認めていたのです。また職務上の問題も第一の理由ではありませんでした。ペテロは献金を受け取っていたのですから。

明らかに、パウロが働いた理由は経済的理由以上の理由からでした。2度も彼はこう言っています。彼は、福音の妨げとならないように働いているのだと。他の使徒達はユダヤ人の間で働いていましたが、パウロは異邦人の中で働きました。もし彼がいたるところにいる公的な演説家として見られていたら、彼のメッセージは疑いの的となったことでしょう。彼らはより多くの利益を得るために会衆を喜ばすような演説をしたり、続いて裕福な後援者からのひいきを得るために彼らの気に入る説教をしたりしていました。

パウロは経済的に独立を保つことによって自分のメッセージの信用性を得ていたのです。彼は教会のどんな機関からも、またどんな裕福な後援者からも謝恩を受けていませんでした。

しかし二つの文章はこの結論に反対するよう見えます。パウロはいくらかの献金を受け取っていました。ですから私たちは3つの質問を試みる必要があります。1)どれくらいパウロは働いたのか?2)どのくらいの献金を彼は受けていたのか?3)いったいなぜ彼は働くことを強調したのか?

## パウロはどのくらい働いたか？

第一伝道旅行において、コリント9:6から、パウロとバルナバはキプロスからガラテヤへの道においてすでにセルフサポートをしていたように思われます。また、パウロが現在時制を使っていることから、彼らのチームが別れてからもセルフサポートを続けていたことがわかります。

第二伝道旅行で、パウロはピリピに贈り物を届に行きます。(IIコリント11. 12)彼の改宗者へのこれらの手紙によると、彼はテサロニケで働いていました。彼は「昼も夜も」働いていました。これは、朝早くと午後遅くのシフトということです。マケドニア地方では、今日でも同じような時間帯で仕事をしている人々がいます。労働者は朝まだ暗いうちに仕事に行き、日中の暑い時間帯に3、4時間の休憩を取り、暗くなるまでもう一度働くのです。夕食は9時から深夜12時までの間に取ります。

使徒18章5節はよくパウロがテモテとシラスがお金を持ってピリピから帰って来るまでの間だけ働いていたというふうに解釈されます。しかしギリシャ語の聖書には、彼がみことばを宣べ伝えるのに一生懸命だったとだけしか書かれていません。パウロが見つけたばかりのテントメーキングの仕事をすでに止めてしまったと解釈される事がしばしばあります。しかし聖書を調べてみると、同労者の到着後にも彼の活動は変わらなかったということが読み取れます。彼が自分の手で働くことを止めたと信じる理由はどこにもないのです。彼は自分の手で働くこととミニストリーを融合させていたのです。

もしパウロが何日間、あるいは何週間で自分の仕事を止めてしまっていたとするなら、コリントでそのことは決して話題にはならなかったでしょう。しかしパウロがエペソに行った後、ユダヤ教徒たちがコリントに来て、まさにこの話題についてパウロを非難しようとしたのです。彼らは、パウロがその手で働いたことは、彼が本物の使徒でないので献金を受ける資格がないことを証明している、と言ったのです。

しかしもしパウロがコリントやほかの場所でほとんどの時間を働いて過ごしたのであれば、彼に対する非難は根拠の無い物であり、彼の自分の仕事に対する熱心な弁護も意味の無い物になってしまいます。この食い違いのゆえに、私たちはコリントの新しい教会に対してかかれた彼の二つの手紙の中に、セルフサポート宣教師の働きに関するパウロの価値ある見解を得ることができたのです。

第三伝道旅行で、エペソからパウロはこう書いています。「今にいたるまで、私たちは飢え、渇き、着るものもなく、虐待され、落ち着く場所もありません。また、私たちは労苦して自分の手で働いています。」(コリント4: 11. 12)ユダヤ教徒たちはパウロはみずぼらしいものを着ているから彼は重要な人物ではないといいました。パウロは上流階級の改宗者たちにとっていやな存在となったのでしょうか。

エペソの年長の改宗者たちに対してパウロが最後に残した言葉のなかに、彼はこう言っています。「私は、人の金銀や衣服をむさぼったことはありません。あなたがた自身が知っているとおり、この両手は、私の必要のためにも、私とともにいる人たちのために

も、働いてきました。このように労苦して弱い者を助けなければならないことを私は万事につけ、あなたがたに示してきたのです。」(使徒20:33-35)

パウロはよくない環境で育った背景を持つ「弱い」人たちが簡単に誘惑されて怠けた生活をして、クリスチャンたちの親切に甘えるようになるのを防ぐため、彼らの証になるように、いえの教会の牧師たちに、パウロ自身がしたように、自分の必要のために働くように、そしてよい働きと証のモデルとなるようにと戒めました。(コリント6:10, 11)パウロがイエス様の、受けるよりも与える方が幸いである」という言葉を引用したとき、牧師は貧しい人に与えるために働くべきであるといったものではありません。

施しは、無責任と依存を育てる結果になり、パウロはそれを直そうとしていました。それよりも、牧師がセルフサポートを続けるということは、不道德で、偶像礼拝の、ものぐさな異邦人の住民への教会開拓の段階において、必要な犠牲多いモデリングだったのです。

ではどうやってパウロは彼の仕事と働きを融合させていたのでしょうか。彼は職場での個人伝道に加えて、「家から家へ渡り歩いて」改宗者たちを教えていました。つまり、彼は、多分夜には家の教会で教え、ツラノの講堂が使われていない12時から4時までの長い昼休みの間に、そこで教えていたのです。(F.F.ブルースはこの詳細についての古い資料を提唱しています。)

ルカは、ツラノの講堂でのパウロの聴衆たちは病気が癒されるのではないかと彼の仕事に使うエプロンや手ぬぐい(彼の額についた汗拭きタオル)を借りたと記録しています。彼が仕事着のまま教えていた様子がみえてくるようです!昼休みに聞きに来ていた労働者たちはきっと同じ格好で聞いていたことでしょう。(使徒19:11, 12)

エペソでの3年間の終わり頃に、パウロはユダヤ教徒たちの非難に答えるためにコリントの手紙を書いています。そして彼はコリントに警告のために「悲しい立ち寄り」をし、そこで拒絶を受けました。彼はもう存在していない「厳しい手紙」を書きました。そしてデメテリオの暴動で死ぬ寸前のところを逃れ、トロアス行くことができたのです。そして、テトスをそこで待たずに、そこでテトスと合流するためにピリピに進んでいきました。

テトスは良い知らせを持ってきました。パウロはコリントで言っています。彼が三度目に訪れるときも前と同じように働くだらうと。(11:12-21)パウロが、彼の使徒としての立場が疑われているときにもテントメイキングを強調したということは、テントメイキングが彼の教会開拓の戦略において譲れない部分であったことを示唆しています。でも反対に見える証拠を見てみましょう。

## どれくらいの献金をパウロは受けていたのか?

コリントの9章で、彼は自分(とほかのクリスチャンの)献金を受ける権利を強く主張しています。彼は彼の改宗者からの献金(彼は拒否しました。)と自分の稼ぎを対照させて

いるようにみえます。しかし彼の権利の主張はすべての資金源からのサポートを含んでいます。

IIコリントの9:8,9には彼はコリントの人々に彼らに仕えるために「他の教会から奪い取った」と書いています。「奪い取る」というのは明らかに強調するための誇張表現です。たとえば「マケドニアからの兄弟」が莫大なお金を彼に渡したとしても、それは盗みにはならないでしょう。しかしピリピ人は、マケドニア人の多くと同じように、貧しい人々でした。パウロはコリントの人々を恥じていたのです。

しかしコリントに加えて、もっとも重大な文はピリピ4:15, 16にあります。何年かの後に、ピリピ人はネロの宮殿の牢獄にいた働くことのできないパウロに、献金を送りました。パウロは彼らに感謝しました。そして以前の彼らのサポートを思い出して、こう言っているのです。私の働きのために、献金をしてくれたのはあなたたちの教会だけだった、と！そして一回または二回を表わすあいまいな言葉で彼らは「一度ならず二度までも」送ったと書かれています。

ユダヤ教徒たちはパウロの教会から献金を受け取る権利を要求しています。彼らはパウロが彼の改宗者からまったく献金を受け取っていないことに戸惑い、彼をうそつきだと非難したのです。彼らはパウロが何らかの資金源から不正に献金を受けていたに違いないと主張しました。

IIコリント12:16-18で、パウロはこの非難を固く否定しています。そして彼はどんなところからも献金を受けていないと主張しているのです！開拓の段階では、彼はただで人の家に入ることをしませんでした。(Iテサロニケ3:6-16)彼は、形成された、古い教会の成熟したクリスチャンの友達からは食べ物や短い滞在のための宿を受けていました。(ピレモン22節) (旅行者は一晩か二晩以上の滞在にはお金を払う習慣がありました。)

書かれているところによると、パウロとそのチームはその3回すべての伝道旅行においてポリシーとしてセルフサポートをし、マケドニアからの2回の献金を除いては、どんなところからも経済的援助を受けなかった事を示しています。もしパウロが教会からの献金を受けていたなら、彼の非難は間違っている事になり、彼のセルフサポートに関する議論は偽善的である事になります。

## いったいパウロはなぜ働いたのか？

コリントにおいて、パウロは非難のさなかにあつた彼のメッセージと会話的な説教を弁護しています。そしてまたコリント人の質問にも答えています。しかし9:3で彼は以前の最も厳しい非難を受けた使徒職と自分の手で働く事に関して弁護を始めています。古代のほとんどの著者が(またほとんどの聖書記者も)そうであるように、パウロも最重要の話題を彼の手紙の真ん中に書いています。彼はその手紙の真ん中で、福音のために権利を捨てるということを弁護しています。パウロはこれは私を調べる人に対する私の

弁護だと言っています。私たちはパウロがその手で働いた3つの理由を考えたいと思います。

信頼のため。彼は二度(コリント9:12、11コリント6:3)彼が働くのは、異邦人にとって彼のメッセージの動機が疑いとならないように、福音の妨げとならないようにだと言っています。パウロのセルフサポートはかれが本物だという事を実証しました。彼は経済的なサポートを受け取っていませんでした。いやむしろ、多大な犠牲を必要としました!彼は、国中を歩き回りながら、聴衆から搾取しているような非良心的な演説家と思われる事はありませんでした。彼は「すべての人に対して自由である」ために誰からもお金を受け取りませんでした。彼はどんな金持ちの後援者からも恩恵を受けていなかったし、また政治的派閥からも、裕福な個人からも、コリントの分派からも何も受けていませんでした。この町において、この事はどんなに輝かしいポリシー出ある事が証明された事でしょう!

アイデンティティーのため。パウロは、人々を勝ち取る目的のために彼らの文化に適応するために仕事をしました。彼はユダヤ人にはユダヤ人として、ギリシャ人(教養のある異邦人)には高い教育を受けた、3カ国語を話す、3つの分化を持っている、上流のローマ市民としてアプローチをしました。しかし彼がまず焦点を置いていたのは、「弱い人々」、貧しい人、教育を受けていない人、身分の低い人、そして教養の無い人々でした。(彼らは野蛮人ではありませんでしたが、みなギリシャ語を話す人々ではありませんでした。奥地から来た田舎の人々や部族の人々、また多くの外国人も含まれていました。日雇い労働者も少しいましたが、そのほとんどは奴隷の人々でした。)

パウロの社会的な身分と教育は、どこに行っても上流階級の人々からの尊敬を集めました。(明らかに、彼のぼろぼろの服もそれを隠すことは出来ませんでした。)アテネでは、彼はこの大学都市の哲学者から広場で話すことをお願いされました。エペソでは、地元のアジア人の支配者達でさえ彼の友達になりました。ローマの総督フェストもパウロ、博学が気を狂わせているといいました。

しかしパウロにとっては労働者と同じになることのほうがもっと難しかったのです。ですから彼はその手で仕事をして自分の生活費を稼ぎました。(コリント9:19~)彼は彼らと同じ物を着、同じように生活をしなければなりません。そこには「ふりをする」ということがあってはなりません。彼と彼のチームは完全に彼らの労働によって生活していたのです。(ピリピ3:7-9はパウロが彼の財産を失ったことを示していませんか?)

どうして教育を受けていたパウロがなぜ、社会的にも経済的にも低いところに位置していた職人と一緒にされることを選んだのでしょうか。なぜならローマ帝国のほとんどの人々は低いクラスの人々だったからです。70から80パーセントの人々は奴隷でした!さらには、教養の無い人達こそ、パウロにとってギリシャ語を話さない田舎の人々や、奥地の部族への接点だったのです。パウロが労働者と自分を同じ者とみなしたことは偽者ではありませんでした。賃金は低いものでした。しばしば彼は空腹で、寒さにふる

え、ぼろぼろの服しか着れませんでした。このモデルはパウロだけのオリジナルではありません。彼は、私達と同じになるためにすべてのものをお捨てになったイエス様の真似をしたのです。パウロはIコリント8:9、ピリピ2:5-11、コリント11:1でこのことを思い起こさせてくれます。

モデリングのため。パウロは書いています。「苦勞し、骨折って、私たちはあなたがたに迷惑をかけないため、そしてあなたがたに見本を示すために昼も夜も働きました。」(Iテサロニケ3:8)

第一に、パウロは改宗者に福音を生きることがどんなことかを示しました。教会でだけでなく、職場において!彼らはクリスチャンという人々を見たことがありませんでした。彼らの誘惑に満ちた、不道德な、偶像礼拝の文化にあって清い生活をどのように生きればよいかということは、口で教えるだけでは十分ではありませんでした。パウロがこの同じ汚い環境の中で神を敬う生活をできたということによって、彼は尊敬を得ました。(Iテサロニケ4:1~)

第二に、パウロは聖書的な仕事の倫理の模範となりました。(IIテサロニケ3:6-15)改宗した泥棒や、偶像礼拝者や、酔っ払い、家族のために忠実に働く者、必要のある人に気前よく与える者に変えられていきました。(Iコリント6:10、エペソ4:28、テモテ5:8)変えられた浮浪者が外部のものに与えたインパクトを考えてみなさい!パウロは仕事について多くを書きました。それ無しには、神を敬う改宗者も、健康な家族も、独立した教会も、生産的な社会も有り得ませんでした。

第三に、パウロは平信徒の伝道者の働き方を決定する模範を示したのです。(Iテサロニケ1:5-8)改宗者は直ちに彼らの社会的におかれた場所において変えられた生活と新しい希望について質問してくる人々に答えることによって伝道するフルタイムの、無償の伝道者になりました。すべての改宗者は、敵の領域への新しい最前線になりました。彼らは、親戚や、友達や隣人や、職場の同僚をキリストに勝ち取ってしまうまでは性急に自分たちの環境を変えてはいけませんでした。(Iコリント7:17-24)

パウロは行き当たりばったりの伝道はしませんでした。彼は注意深く戦略を立て、「賢い建築家のように」固い土台を据えていったのです。(Iコリント3:10-15)テントメイキングは彼の計画になくなくてはならない部分でした。

## パウロの戦略とは何だったのでしょうか?

パウロの教会開拓におけるユニークなアプローチは、世界的な平信徒宣教師の運動、つまり世界宣教の最短距離を生み出すようにデザインされていたのです!

最初から、パウロの教会は自己増殖的でした。みなぎ給料無しに伝道しました。平信徒の伝道は当たり前なことでした。

彼の教会は自分たちでコントロールされていました。外国のリーダーシップに頼ってはいませんでした。パウロと彼のチームは決して教会を牧会しませんでした。彼らは彼らが訓練し、「神のすべての御心をあますところなく」教える聖書学校で教えられた家の教会のリーダーたちを任命しました。

彼の教会は自給していました。外国の資金源に決して頼りませんでした。家の教会の牧師たちでさえ、開拓の段階にあるときにはセルフサポートをしていました。しかし改宗者には与えることを教えていました。なぜなら貧しい人を心にかけることは、クリスチャンにとってしてもしなくてもよいことではないからです。

パウロはほとんど突然に、家の教会のリーダーを指名しました。しかし彼らは自分の仕事を続けました。(使徒20:33-35) 会衆がフルタイムの牧師を必要とするようになるまでには、その地方のリーダーは明らかに家の教会の中でまた、その地域の未信者たちの中でも最も高い尊敬を受けるようになっていました。(1テモテ3:7) もしこれらの牧師たちが、一度も未信者たちの間で働いたことがなかったら、どうしてメンバーに同じ事をするように頼めるでしょうか。どうやって彼はメンバーを訓練するのでしょうか。(エペソ4:11-12)

家の教会が増殖し、フルタイムのリーダーが必要になるころには、そのリーダーを支えるのに十分名献金を地域はまかなうことができました。パウロの古い教会は、牧師たちのためによく貯えておくように教えられていました。パウロはガラテヤ人に、またその後でエペソの長老たちにそのことを思い起こさせました。(ガラテヤ6:6、テモテ5:17-18)

メンバーたちは、みな働いていたので与えることができました。パウロは仕事に対する厳しい倫理を染み込ませていました。彼らは、牧師が部外者ではなく尊敬するその地域のリーダーであったので、喜んで与えました。

無給の伝道の、もっとも大切な基本的なパターンが構築されていたので、有給のミニストリーは、決まりきったことというよりは、例外でした。

パウロは彼のどの成長段階にある教会にも、外国の資金源や指導者に頼るようになることを許しませんでした。パウロの戦略は行き当たりばったりではありませんでした。もし彼自身が働いていなかったら、彼は決して自給する伝道者も、独立した教会も作ることはできなかったでしょう。彼は他の人々に注意深くおかれた彼の土台の上に気をつけて建てる様にと警告しました。(コリント3:10) 教理においても、方法においてもです。

## パウロの戦略はどのように効果を発揮したのでしょうか？

彼の平信徒伝道者たちの多くは、好ましくない、教育を受けていない、不信心な背景からの人々でした。誰も人類学や、宣教学の訓練を受けたこともありませんでした。ほとんどが奴隷でした。しかし彼らは大きな個人的な危険を冒して福音を信じ、また給料無しにその福音を命を懸けて他の人々に伝える人々でした。

10年の間に、(3回の伝道旅行は10年を要しました。)パウロとその仲間は(経済的支援無しに)6つのローマの州を伝道しました!

彼らは無学の、無給の、そのほとんどが奴隷であったような人々を勝ち取り、彼らを動員することによってそれを成し遂げたのです。

パウロはローマのクリスチャンに彼の過去20年にわたる宣教の働きについてこう述べています。「エルサレムからイルリコ(今のアルバニア)にいたるまで、キリストの福音をくまなく伝えました。…もうこの地方には働くべき所がなくなりました。」(ローマ15:19-24)彼は帝国のギリシャ語を話す半分の人々への伝道を終え、ラテン語を話す、ローマとスペインを含んだもう半分の人々の方へ向かっていたのです。

しかしどうして彼は、一度も主要都市の外では働いたことがない様に見えるのに、地中海のギリシャ語を話す半分の地方への働きを終えたといい得たのでしょうか。同じ手紙の中でパウロは、自分はユダヤ人にも異邦人にも、ギリシャ人にも未開人にも負債を負っていると書いています。(ローマ1:14-16)未開人は、ほとんどの人が第一言語としてギリシャ語を話さず、田舎や部族の住む村々に住んでいる人たちでした。パウロは彼らのことは気にかけていなかったのでしょうか。

ローマ帝国はつながった都市の連携と、軍隊による植民地の集まりにすぎず、それぞれの地方は独特の文化、独特の法律をもっており、それらはローマの権力者によって管理されているのが通常でした。ローマの皇帝も、以前のギリシャ人の中でも、誰一人それらの部族の人々を統合しようとか、教育しようとはしませんでした。都市においても、たくさんの言語が話されていました。パウロは、リカオニア語を話す人々によって、ルステラ大変な騒動に巻き込まれました。(使徒14)

パウロの戦略は、このチャレンジを満たしました。多国後を話す、低階級の改宗者達が無給の伝道者になることによって、パウロは奥地への伝道を保証したのです。ミカエル・グリーンは改宗者達がどのように彼らの生まれ故郷に福音を伝えに行ったかを述べています。新しい改宗者は、同じ服装、同じ言語と分化を持って、外国の宗教としてではなく福音を自国へ持ちかえりました。また村の人々が都会へ訪れることもありました。

ピリピでの数ヶ月の後、パウロはマケドニアの教会について、複数形で語っています。テサロニケへの彼の最初のフォローアップの手紙に、彼はこの福音はすべての地域から彼らに伝えられたと書いています。コリント人が、アカヤ地方で福音を伝えたのです。

パウロはエペソに3年間滞在しました。しかしルカは2年間の間に「アジアに住むものはみな聞いた」(使徒19:10)と書いています。これはローマのアジア地方の全州、すなわち、ローマ帝国の経済的な中心地を意味しました。なぜならアジアの大きな貿易ルートはこの都市を中継していたからです!

ルカは大げさに言ったのでしょうか。暴動を起こし銀細工人のデメトリウスが、偶然にもルカの証言を確認しています!彼は言いました。「エペソだけでなく、ほとんどアジア全体にわたって、あのパウロは大勢の人を説き伏せ、惑わせているのです…」銀細工の産

業は商売にならなくなり、アルテミス神殿の礼拝は消滅の危機にさらされるほど多くの  
人です!(使徒 19:24-26) 2年間です!

パウロの戦略は土着の、そして指数関数的な(ねずみ算的な)成長をもたらしました!  
改宗者は急激に増えました。反対的な文化での開拓においては、そのスピードが重要  
でした。パウロの改宗者達はあまりにも急速に福音を伝えたので、反対が起こったとき  
には、その火を消すにはもう遅すぎる段階になっていたのです!こんにち、私達はノンクリ  
スチャンの宗教指導者達に福音に対する反対運動を何度も起こすのを赦しています。

ドナルド・マクガブラン博士は、教会成長には、大きな無給の伝道者達の力が必要で  
あると述べています。しかし、もし私達の提供するモデルが献金に支えられた伝道者の  
姿だけであるなら、どのようにしてその人々が生み出されるでしょうか。西側からきた宣  
教師たちは裕福であると考えられています。パウロの改宗者達は彼にこう言うことは  
決して出来ませんでした。「あなたは給料をもらっているし、その時間があるから伝道で  
きるんでしょう。あなたはこの国にあって家族を養うために長い時間働くということが  
どういうことか分かっていないんです。」

もしテントメーカーが高い給料をもらっていたとしても、同じ問題は起こりません。なぜ  
なら彼は彼のクリスチャンのミニストリーに対して給料をもらっていないからです。彼はそ  
の給料によって、必要のあるところに気前良く与えることができるでしょう。私達は、普  
通の宣教師の家族を含んだような、自給する宣教チームを送ることによって、今まで世  
界中に送り出してきた西洋的な宣教師のパターンを緩和することが出来ます。

## パウロのモデルはこんにちにも役に立つのでしょうか?

パウロのテントメイキングの実践は、こんにちの宣教団体における次のような課題に  
おける混乱の大部分を一掃します。

- 1) 単純な定義が可能になります。テントメーカーとは、仕事と、フリータイムにおいてイエ  
スキリストを知らせるために、非宗教的な場所でセルフサポートをしている宣教を動  
機としたクリスチャンのことです。
- 2) それは仕事と証しの統合によって、テントメーカーの働きがフルタイムであることと、  
また伝道と家の集会に焦点を当てていることを実証します。クリスチャンの個人的  
な誠実さ、質の高い仕事、愛のある人間関係そして分別のある職場での口による  
証しは求道者から、神に対する質問を引き出します。
- 3) それは他の宣教のモデルとバランスをとりつつ、テントメイキングに対する聖書的な  
基礎を提供します。
- 4) それは私達の現在の、実際的なテントメイキングの理由に、普遍的で、聖書的な合  
理性を付け加えます。

- 5) それは反キリスト教感情を持った国において、教会開拓をする際の戦略を提供します。
- 6) それは宣教における経済的戦略を提供します。
- 7) それは雇用に対して人事募集の計画を提供することが出来ます。
- 8) それは霊的な準備が必要であることと、どのようにそれを満たすかを示唆します。
- 9) それは個人と宣教団体にテントメイキングの規範を提供します。
- 10) それはテントメイキングに関するほとんどの記事を含んだ、多数の不利益の項目をほとんど取り除くことが出来ます。

これらの「欠陥」はあいまいな定義、とくに、国外に住むクリスチャンの1パーセントの人々しか国外での伝道を行っていないのに、彼らのすべてがテントメーカーであるという間違っただけの仮定から引き起こされるのです。

### こんにちの仕事はミニストリーにとって有効なのか？

20年間に渡って、グローバル・オポチュニティーは何百、何千といういろいろな職業について、世界中の約40種類の雇用人から、雇用機会を調べてきました。GO(グローバル・オポチュニティー)は、献身したクリスチャンが海外でテントメーカーとして仕えるのを助けるために、仕事と宣教の手伝いを行っています。ここに最も良く訪ねられる質問のいくつかの答えがあります。(他のGO記事の注釈を見てください。)

それらの仕事は言語や文化を学ぶのに十分長いのですか？最初の契約は1年から3年の間が普通ですが、更新することが出来ます。もしその仕事がほとんど英語で済まされるとしても、人々の信頼を勝ち取り、注意深く福音を語るために、テントメーカーは彼ら独自の文化に合わせた言語で仕事を出来るようにならなければなりません。彼らはたいてい通常の宣教師よりもはるかに言語と文化に適応するための努力をします。雇用人はしばしば家族にも言語指導を用意してくれます。文化を勉強する場合、形態的に学ぶほうが行き当たりばつりにするより早く学ぶことが出来ます。

それらの仕事の契約期間は明らかな働きが出来るほど十分に長いのですか？テントメーカーの仕事はただちに未信者に対する、そして彼らの多くの質問に対する執拗な調査をさせるにいたります。すぐに証しが始まります。もし彼らが2年間しか居ることが出来ないのであれば、他のテントメーカーが来て彼らの改宗者や求道者と共に働きを続けることが出来ます。(テントメーカーのチームはこのことを容易にします。)しかし多くのテントメーカー達は、神が契約更新を備えてくださる限りは、特定の地域やその人々に生涯を捧げています。ほとんどの人は、最初の短期間の滞在の間に長期の献身を決めます。

1年や2年(旅行滞在も含めて)海外にいることによって、クリスチャンは家庭においてより良い証人になり、彼らの教会の宣教部の委員になり、また牧師や神学校の教授よりも宣教に献身したクリスチャンへと変えられます。

給料は生活費に十分なものでしょうか? 国外の雇い人が払う給料は適度で十分なものから、多くの特典付きのとても高いものまで様々です。彼らは家族に往復の航空券をくれたり、時には子供達に私立の学校に行かせてくれたりもします。しかし良い仕事はそれに相応の学問、また経験を要求します。労働許可証はその国の必要を満たすような専門知識を持った外国人にしか与えられません。

大学で教えることは、テントメイキングにとって最も適した環境のひとつです。しかしパートタイムですので給料は安い場合が多いです。しかし多くの学問機関では、外国からこの目的のためにお金をもらっているのよい給料を得ることができます。契約には、教職員は時間の半分を顧問から紹介された追加の仕事をしていても良いということが明記されています。

その地位が何であったとしても、それらの職業は自国を立つ前に、理想を言えばまだ働いている間に準備されている必要があります。海外に到着してから職を探す人というのは、しばしば疑いの目で見られることとなります。なぜ彼らは無職なのか? 彼らは自国で働くことが出来なかったのか? 彼らは地元の労働者とみなされ、地元の低い賃金で、特典も、飛行気代も払われません。たいてい彼らはその国を去って、労働許可が下りるまで家族と共に隣国に待機することとなります。これはかえってお金がかかります。

多くのクリスチャンは、完全に送り手のサポート体制を整えており、または提示された金額以上のものを望まないのので、海外においての給料は低いです。彼らは数時間英語を教えるだけでまっとうな住家を借りることが出来たらと望みます。しかし、ただの体裁や宣教の働きのカバーだけのために仕事を利用することは、彼らの隣人や、同僚以前に、クリスチャンに疑われることとなります。彼らは自分自身を仕事を持った秘密の宣教師だと考えます。彼らは秘密を持った気持ちでその国に入り、何をしてもその気持ちが現れます。そしていていたる所で疑いを引き起こしていくのです。彼らは信頼性を犠牲にしているのです。テントメイキングとは、伝道をするにあたってその仕事が不可欠であるユニークな宣教のアプローチです。多くの宣教のリーダー達は、彼ら自身が職場での伝道の経験が無いため、パウロがした仕事と証しの統合を適応することをほとんどしません。

## 霊的準備は必要なのか?

すべての兵士が軍人としての訓練を必要としているわけではありません。しかし歩兵は、聖書について、また霊の戦いについて、自然的な聖書研究会について、漁師伝道について、そして聖書を調べる(伝道的な)聖書研究会の話し合いのリーダーシップについて知っていなければなりません。彼らは最低1年間のまたはそれに同等する教会または大学の聖書研究会での聖書を学ぶ期間が必要です。また総論的な宣教に関する短い

コースを取らなければなりません。外国人を伝道するというのはこれ以上無い霊的準備です。

IVCF-IFESのような学生のフェローシップでは、すばらしい内部で仕えるミニストリーの訓練を受けることが出来ます。なぜなら大学は私達の住む、文化の入り混じった、また霊的に反抗的な世界の縮図だからです。若い人々は宣教師たちと共に夏季宣教訓練に参加することが出来ます。「ジュニア・イヤー・アブロード」といって、経験のあるキャンパス伝道者から訓練を受けながら言語と文化を学ぶプログラムを行っているところもあります。

### テントメーカーは信頼し、従います。

テントメイキングにおける最大のチャレンジは、平信徒の宣教師の不足ではなく、反キリスト教的な政府による制限です。通常の宣教師もまた、許可をもらえなかったのなら、同じチャレンジを経験します。

テントメーカーは神が信頼できる方であり、危険や、解雇や、国外追放から守ってくださるということを知りつつ、賢く、求道者を釣る伝道をしていかなければなりません。すべての人が難しい環境にいるわけではありません。多くの家庭はこれらの文化の中で生活を楽しんでおり、何年間もそこに住んでいます。

私達の王は、その創造の権利によって、また贖いの権利によって、すべての国を所有しておられます!誰も彼の許可なしには、その子供の一人にさえ触ることは出来ないのです。

こんにち少数の信者しか存在しないところでも、まもなく教会は繁栄し、昨日の迫害されていた少数派の人々が、きょうは成長し増殖している教会になるようになります。私達はイエス様の言葉を持っています。「私は私の教会を建てる。」(マタイ16) 私達は、この世界の支配権を巡る全世界を含んだ戦いがどのような展開になっていくのかを、聖書の最後の書の中に垣間見ることが出来るのです!(黙示録11:15、7:9-12)

しかしまたすでに伝道された地域も分極を経験するようになり、違う形での迫害が起こります。以前のキリスト教社会に見られたような世俗化のように。宣教の指導者の中には、まもなくどこに行っても宣教師が受け入れられなくなる時が来ると予想しています。この歴史の終わりの時代に、地元の平信徒と外国のテントメーカーだけが世界宣教を達成することが出来るのです。いまこそいたる所で平信徒を訓練すべきときです。テントメーカーのモデルは重大なのです!

この1990年代の増加する国際雇用機会の中、テントメーカーと通常の宣教師、そして受け入れ国の信者と自国の贈り手達は、みな私達の最高指揮官の元で仕えています。私達はすべての民族の中に教会を開拓し、あらゆる国々からの群集に加わり、私達の王の王に賛美を歌うことが出来るのです!

By ルース.E.シーメンス

’なぜパウロはテントメイキングをしたのか?’は、*Global Opportunities*という宣教会から研究されたもので、ゴスペルハウス翻訳部で翻訳したものです。

ゴスペルハウスホームページ: <http://tolove.jp/jp/>

テントメーカー養成神学校: <http://tolove.jp/school/>

お問い合わせ: [tolove@tolove.jp](mailto:tolove@tolove.jp)

*Copyright was obtained from Global Opportunities.*

Global Opportunities: <http://www.globalopps.org/>

#### **Bibliography (in addition to Bible commentaries):**

Roland Allen. *The Case for the Voluntary Clergy*. London: Eyre and Spottiswoode, 1930.

Roland Allen. *Missionary Methods: St. Paul's or Ours?* London: World Dominion Press, 1930

.Roland Allen. *Spontaneous Expansion of the Church*. Grand Rapids: Eerdmans, 1962.

F. F. Bruce. *Paul and his Converts*. Downers Grove, IL: IVP, 1985.

W.J. Coneybeare. *The Life and Epistles of St. Paul*. Grand Rapids, MI: Eerdmans, 1968.

William Danker. *Profit for the Lord*. Grand Rapids, MI: Eerdmans, 1971.

Michael Green. *Evangelism in the Early Church*. Grand Rapids, MI: Eerdmans, 1970.

Gerald Hawthorne, Ralph Martin, Eds. *Dictionary of Paul and his Letters*. Downers Grove, IL: IVP, 1993.